

（1）同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

管理栄養士を目指せる大学であること、就職率が高いことを条件に自分に合った大学を探していました。オープンキャンパスに行き、校舎が綺麗で雰囲気が自分に合っていると思ったのでこの大学を志望校に決めました。

（2）一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

2年の2月後から予備校に通い始め、英語の単語や文法をしていました。数学は公式を見えたる基本的な問題を押さえたりして基礎を固めました。この頃は学校外での勉強時間あまりとらずに学校の授業が中心でした。また「受験生としての自覚がなくとも、何か小さなことから始めみるとことが大切だ」と思いました。

〔夏休み〕

夏休みは生物の暗記に重点を置いていました。予備校のテキストを1冊にまとめたり、重要語句を何度も書いていました。また、1日に必ず長文を1つ解き、その長文を繰り返し音読しました。私は長文を読む速度が遅く時間もロスしていましたが、音読を毎日繰り返していくうちに徐々にスラスラ読めようになってきました。ほぼ毎日、予備校で8時間～10時間やりました。

〔2学期～入試直前〕

2学期では高校で配布された生物の問題集をしていました。暗記ではかりじて問題形式に慣れていなかったので、問題集をすることにより実際には点数へと繋がっていました。入試直前は過去問をたくさん解きました。過去問を解けば解くほど「傾向がわかつたり自信がついたりします。数学など1年の時に習って以来手をつけていなかった教科は忘れているところがあったのでもう一度思い出しながら復習しました。最終的に、時計を見ながら時間配分ができるくらいまで過去問に慣れていました。

（3）この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

自分の部屋にいるとスマートフォンを触ってしまうので、予備校に行ったりネットでは親が見ているリビングで勉強するようにしました。冬はマスクを付け、出来るだけ早く寝るなど健康面にも気を付けていました。インフルエンザの予防接種を受けました。食後などに眠くなったり時は15分ほど寝るようになります。眼鏡を我慢するより頭がすっきりして集中できるので効率がいいと感じます。受験生活に疲れたときは週末に好きなことをする時間を作ることで、ほどよく気抜きをしました。

（4）受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

過去問で合格最低点を超えることも、落ち込んだり諦めたりしないでください！私は公募推薦の過去問で最低点を30点ほど下回っていましたが、本番ではあと2点で合格という結果でした。合格点には及ばなかったけれど、本番で何が起こるかわからぬという事を学びました。大切なのは今までの自分を信じることです。気持ちの持ちようによじては解ける問題も解けなくなってしまうからです。どんどん弱点を克服していく下さい！応援しています!!